

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生理学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期 水曜1限	教室名	2校舎501教室
担 当 教 員	鈴木 次郎	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>からだの構造と機能の根幹となる教科です。からだがどのような仕組みによって働いているか知る。特に生理学Ⅱでは、内臓の機能を概説できる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
鈴木:期末テスト						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
東洋療法学校協会編:生理学 第3版 プリント						
《授業外における学習方法》						
生理学に関しては、数多くの参考書・問題集が出版されており、授業のなかでも紹介していきます。最初の根幹となる科目となり、わからない箇所は、その日のうちに質問するよう心がけてください。また、その日に習った内容はその日のうちに復習してください。						
《履修に当たっての留意点》						
生理学は深く勉強すれば深く勉強できる教科です。ただし、はり師きゅう師に求められる内容(テキストに記載されている内容)は最低限理解する必要がある。2年次に学習する科目にもつながる科目である						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホメオスタシス・細胞の構造と機能を習得する(説明できる)	プリント 教科書	教科書の目次を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 第1章 生理学の基礎(ホメオスタシス・細胞の構造と機能)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	物質代謝・体液・体内での物質の移動を習得する(説明できる)	プリント 教科書	教科書p.2~13を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	第1章 生理学の基礎(物質代謝・体液・物質の移動)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	赤血球の構造と働きを習得する(説明できる)	プリント 教科書	教科書p.8~p.20を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(赤血球の構造と働き)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	白血球の働きを習得する(説明できる)	プリント 教科書	教科書p.16~p.21を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(白血球の働き)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	血小板の働き、止血作用を習得する(説明できる)	プリント 教科書	教科書p.21~p.26を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(血小板の働き、止血作用)			

授業の方法		内 容		使用教材	
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液型を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.16～p.28を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(血液型) 「血液」の復習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓血管系、心臓の構造を習得する(説明できる)	プリント教科書 心臓模型	教科書p.28～p.32を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(心臓血管系、心臓の構造)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	心機能の調節、心電図、心臓の支配神経を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.32～p.36を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(心機能の調節、心電図、心臓の支配神経)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	血管の構造、脈拍、毛細血管、静脈、血管の支配神経を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.37～p.42を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(血管の構造、脈拍、毛細血管、静脈、血管の支配神経)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	血圧のメカニズム・血圧測定メカニズムを習得する(説明できる)	プリント教科書 血圧計	教科書p.42～p.43を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(血圧)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環の調節(圧受容器反射)を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.44～p.47を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(循環の調節)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環の調節(圧受容器反射以外の調節)を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.44～p.47を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(循環の調節)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	特殊循環を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.47～p.52を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 循環(特殊循環)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	心臓・血管系の全般の理解を深める	プリント教科書	教科書p.28～p.52を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第2章 循環の復習		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	生理学の基礎、循環の重要項目を説明できる	プリント教科書	前期分の資料からまとめておく
		各コマにおける授業予定	まとめ 評価の確認		

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生理学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2校舎501教室
担 当 教 員	鈴木 次郎	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>からだの構造と機能の根幹となる教科です。からだがどのような仕組みによって働いているか知る。特に生理学Ⅱでは、前期に学習した生理学Ⅰの神経の仕組みと、内臓の調整の仕組みを合わせて概説できる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
鈴木:期末テスト						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
東洋療法学校協会編:生理学 第3版 プリント						
《授業外における学習方法》						
<p>生理学に関しては、数多くの参考書・問題集が出版されており、授業のなかでも紹介していきます。最初の根幹となる科目となり、わからない箇所は、その日のうちに質問するよう心がけてください。また、その日に習った内容はその日のうちに復習してください。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>生理学は深く勉強すれば深く勉強できる教科です。ただし、はり師きゅう師に求められる内容(テキストに記載されている内容)は、最低限理解する必要がある。2年次に学習する科目にもつながる教科です。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器の構造・呼吸運動を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書の目次を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	オリエンテーション 第3章 呼吸(呼吸器・呼吸運動)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	肺における換気とガス交換・呼吸運動の調節を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.54～p.66を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	第3章 呼吸(換気とガス交換・呼吸運動とその調節)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器系の構造と機能、口腔・食道・胃の機械的消化作用を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.68～p.71を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	第4章 消化と吸収(消化器系の構造と機能、消化管の運動1)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	小腸、大腸における機械的消化作用を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.71～p.76を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	第4章 消化と吸収(消化管の運動2)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	唾液・胃液・膵液・胆汁の働きを習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.76～p.82を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	第4章 消化と吸収(消化液1)			

授業の方法		内 容		使用教材	
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	腸液の働きを習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.82～p.84を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第4章 消化と吸収(消化液2)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	各栄養素の吸収、肝臓の働き、摂食の調節を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.84～p.89を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第4章 消化と吸収(吸収・肝臓の働き・摂食の調節)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝機能を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.92～p.105を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第5章 代謝		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温調節の仕組みを習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.108～p.115を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第6章 体温		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌ホルモンの特徴、視床下部のホルモン、下垂体のホルモンの働きを習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.130～p.138を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 内分泌(ホルモンの特徴、視床下部のホルモン、下垂体のホルモン)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	甲状腺のホルモン、副甲状腺のホルモン、膵臓のホルモン、副腎のホルモンの働きを習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.130～p.147を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 内分泌(甲状腺のホルモン、副甲状腺のホルモン、膵臓のホルモン、副腎のホルモン)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	精巣のホルモン、卵巣のホルモン、その他のホルモンの働きを習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.147～p.150を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第8章 内分泌(性腺のホルモン、その他のホルモン)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	生殖器の構造と働きを習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.152～p.156を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第9章 生殖・成長と老化(生殖)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠と出産・成長・老化を習得する(説明できる)	プリント教科書	教科書p.156～p.162を一読しておく
		各コマにおける授業予定	第9章 生殖・成長と老化(妊娠と出産・成長・老化)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器、消化・吸収、代謝・体温、内分泌、生殖の重要項目を説明できる	プリント教科書	後期分の資料からまとめておく
		各コマにおける授業予定	まとめ 評価の確認		